

# DU WATCH

劣化ウラン研究会ニュースレター 第24号 (2010/09)

〔はじめに〕

対人地雷、クラスター爆弾と、禁じられる通常兵器が増えてきている。いずれもNGOを中心としての廃絶の取り組みが功を奏している。その中の「対人地雷禁止条約」(オタワ条約)の制定主旨について外務省のホームページにはこう書かれている。

「紛争地帯を中心に埋設された地雷は、非戦闘員である一般市民に対し無差別な被害を与えるという、人道上極めて重大な問題を引き起こしている。また、そうした地域の紛争終結後の復興と開発にとって大きな障害となっている。」

これはまさしく劣化ウラン兵器がもたらしている現状をそのまま記述した文章と言える。「埋設された地雷」を「拡散した劣化ウラン」と読み替えるだけで良い。

見かけ上、爆発したり一瞬で命を奪ったりしないだけで、劣化ウランがもたらす犠牲は、対人地雷やクラスター爆弾と同じだと言うことを、冒頭のイラクから来日されたアル・アリ医師やハビブ医師の証言から、想像していただければ幸いである。

劣化ウラン研究会 山崎久隆

## 7月29日にカタログハウスで行われた アルアリ医師とハビブ医師の講演要旨

劣化ウラン研究会 野村修身

アルアリ医師は6度ほども来日されていますが、ハビブ医師は初めての来日です。講演に先立ち述べられましたのは、湾岸戦争から20年ほども経ち、そのあとのイラク戦争からも7年の月日が流れましたが、未だにイラクの政情は安定せず、医薬品の不足が目立っているとのことです。このようなイラクの状況を看過できず、被曝問題のために活動している人々に深く感謝をするということでした。

劣化ウラン弾は数ミクロンほどの大きさの微粒子になって、人間の体内に取り込

まれて、あらゆる臓器に滞留してガンを引き起こすわけです。特に、骨髄のような細胞分裂が活発な臓器には、大きく悪影響を与え、白血病の原因となります。

アルアリ医師が活動されているバスラでは、湾岸戦争の時もイラク戦争の時も、劣化ウラン弾が大量に打ち込まれており、市街地の中心部にさえ投下されたことがあります。その影響は最近にますます大きくなっているようで、特に、発育盛りの子どもにガンの発生が顕著であり、一家に何人ものガン患者が発生することす

らめずらしく無いそうです。  
アルアリ医師が扱った例では、夫が肝臓ガンに妻が乳ガンに侵されているという、ひどい状態さえあります。

ガンの種類ごとに年間罹患率（一年間で、新たにがんと診断された症例の人口10万人あたりの数）を、1995年と2005年で比較したグラフを見ますと、乳ガンの発生数が、最近にきわだって多くなっております。この理由については「現時点ではまだよくわからないが、今後、劣化ウラン被曝も含めたガンの危険因子との関連を検討したい。」と、アルアリ医師は述べていました。一つの可能性としては、乳ガンは自分で発生を見つけやすいためではないかとのことです。すなわち、自分の乳房に毎日さわっていれば、簡単に発生を見つけることが出来るわけです。また、バスラ住民は、大量に打ち込まれた劣化ウラン弾でガンの発生が生じることを知っていますので、特に、ガン発生については神経を尖らせているという背景もあります。

現在でも、劣化ウラン弾に汚染された戦車が、市街地に放置されています。その付近の土壤の放射能を計ったら、1700ベクレル／キログラムもありました。通常の土壤の放射能は70ほどですので、かなり強い放射能汚染です。

必要な医薬品が十分に供給されていないだけでなく、電気や上水道などいわゆるインフラがきちんと機能していないことも、治療が十分に行えない原因となっています。さらに、戦争により人間関係が破壊されてしまったことも、追い討ちをかけています。しかし、そのような世の

中でも、何とか力をあわせて治療にあたっております。

最後に、バスラ・ガン調査グループ（Basrah Cancer Reserch Group = B C R G）の紹介がおこなわれ、協力の訴えが行われました。

アルアリ医師は、2回にわたる大量の劣化ウラン兵器の攻撃を受けたバスラで、ガンや白血病が増えていることを医療の現場で目の当りにし、世界各国でその実態を訴えてきました。そして2004年に、核戦争防止国際医師会議（I P P N W）の欧州地域大会で、バスラでの戦争による環境破壊の健康影響を本当に明らかにするための調査の必要性を訴え、国際協力を要請しました。この要請に応え、2005年、I P P N Wドイツ支部のコーディネートによって、イラクとドイツの専門家がアンマンに集まり、疫学調査や環境放射能の測定などに関する第一回目のセミナーが開催され、そこでの議論を経てB C R Gの活動が開始されました。

B C R Gの活動の柱は次の5つです。

- (1) ガンの登録
- (2) ガンの治療
- (3) ガンの緩和ケア（末期がんの患者さんに対する心身の苦痛の緩和）
- (4) ガンの予防
- (5) ガンの研究

以下は報告者のコメントです。

B C R Gの活動は、ウラン兵器廃絶国際連合（International Coalition to Ban Uranium Weapons = I C B U W）による協力／支援を受けております。この報告

をご覧下さった皆様の協力を切に願います。

BCRGの活動は、ICBUWのウェブサイト

(<http://www.bandepleteduranium.org/en/index.html>にて報告されています。

例えば、2009年7月21日には、トルコのイスタンブールで国際会議が行わ

れました。詳しくは、下記のウェブページをご覧下さい。

<http://www.bandepleteduranium.org/en/a/282.html>

---

マイク・ルードウウィック、「Truthout (真実を明るみに)」紙より

「米軍は、湾岸戦争帰還兵の劣化ウラン被曝を懸念していた」

米下院公聴会 (7/27) で判明 2010年7月28日

(抄訳 山崎久隆)

---

以下は、「Truthout (真実を明るみに)」紙に掲載されたマイク・ルードウウィック氏の記事です。嘉指さんの訳を参考に抄訳を掲載します。なお英語の原文記事は、次のサイトを参照のこと。

<http://bit.ly/b40Cjk>



写真 John Out and About / Flickr

長い間、(米国) 政府は、湾岸戦争やイラク戦争で使われた砲弾に含まれた劣化ウラン (DU) の放射性毒性によってイラク市民や兵士たちが有害な影響をこうむってき

ていることを否定してきた。

しかし、1993年に、当時の陸軍准将エリック・シンセキ [注：日系三世。祖父母が広島からハワイに移住]、現在の退役軍人省長官により書かれた、今までほとんど知られていなかった国防省メモにより、米国防省は、実際は劣化ウラン汚染を懸念していて、毒性物質に曝露した全ての兵士を検査するよう命じていたことが明らかとなった。

文書名「議会への報告草稿の検討：米陸軍における、劣化ウランの健康及び環境への影響?? 行動メモ」(“Review of Draft to Congress - Health and Environmental Consequences of Depleted Uranium in the U.S. Army -- Action Memorandum”)

と書かれたシンセキのメモは、国防省からの、以下のような三つの指示の詳細に小さな修正を加えるものである。

1. 劣化ウランに汚染された装備と接触するかもしれない兵士に対する十分な訓練規定を作成すること。
2. 湾岸戦争において、劣化ウランに曝露した全ての兵士に対する医学的検査を完全に行うこと。
3. 将来の軍事作戦のため、劣化ウランに汚染された装備を回収するための計画を立てること。

しかしながら、復員軍人省は、医学的検査を決して行わなかった。そのため、何十万という帰還兵たちが、劣化ウランの被曝によって引き起こされたガンやその他の病気に関する医療を受けるチャンスを奪われてしまったのかもしれない。

軍保健監視センターの最近の報告によれば過去 10 年のデータは、兵士における特定のがん発症割合が市民と比較した結果高い割合にあることを確認している。

研究者の中には、軍の兵士は若年時から頻繁に健康診断を受ける保証を与えられているため、しばしばがんと診断される機会が増えるのだと考える者があるが、それではデータにある部隊間にある診断結果の相違を説明できない。

たとえば海兵隊員では、戦場に派遣されていない部隊では比較的低い割合であり、戦場に派遣された兵士は肺がんの割合が二倍に達している。

火曜日（7月27日）、復員軍人省は湾岸戦争関連の病気の診断や治療を今に至るまでずっと怠ってきているという事実が、下院・復員軍人小委員会の公聴会において判明した。この公聴会の場で、帰還兵支援グループのメンバーは、慢性疾患と湾岸戦争における劣化ウラン被曝との関連について包括的調査を行うよう、シンセキに対し強く要請した。

シンセキ長官の1993年8月19日のメモで力を得た退役兵士団体「ベテランズ・フォー・コモンセンス（良識ある退役兵士・VCS）」の事務局長ポール・サリヴァンは復員軍人省に対して「もう一つの可能性への少ない機会」「VCSは復員軍人省に軍事用語としての「停戦」を求める」と言った。「復員軍人省はリーダーシップを発揮すべきだ。私たちに適切な手当と処遇を与えず、官僚的な遅延及び不当に管理された研究に基づいてゆっくりと退役兵士たちを死に追いやっている。時間が無くなる前に我々元兵士たちの声を聞け。」

サリヴァン自身が湾岸戦争帰還兵であり、復員軍人省は手当および必要とする処遇を供与するために確実な診断を受け取っていても、長期の病気で苦しむ何千人にも及ぶ元兵士たちからかけはなれ、劣化ウランについて影響される科学者および退役軍人の話を聞くことを拒否していると言った。

1990年から1991年の湾岸戦争でデザートストーム作戦に従軍した697,000人の男女の兵士のうち、およそ250,000人が、まとめて「湾岸戦争症候群」と呼ばれている各種各様の症候に苦しんでいる。復員軍人省によれば、その症状は脱力感、虚弱、胃腸の症状、認識機能障害、睡眠障害、持続的な頭痛、皮膚発疹、呼吸器の症状および気分の変動などだ。

VCSはシンセキ長官に2009年度に7500万ドルの研究計画を使ってテキサス大学医療センターで行われた、湾岸戦争症候群調査の成果について調べるよう請願した。サリヴァンはまた、昨年VCSにより湾岸戦争症候群の調査について「サボタージュ」あるいは意図的に研究および処置を遅らせている記録の有無を調べ



るため、情報自由法に基づく情報公開請求を行ったことを明らかにした。しかし復員軍人省は、依然としてまだ研究の妨害に関する公表されていない文書を持っている。VCSは6月29日に情報自由法に基づく訴えを提起している。VCSは劣化ウランに暴露された退役兵士を支援する独立調査を政府に要求している。しかしサリヴァンに依れば、国防総省は依然として「見せない、知らせない政策」の方を好んでいるという。「私は湾岸戦争帰還兵として、回答も処遇も、手当もされないで死んでいった多くの友人を見てきた。いくつかのケースでは、帰還兵は湾岸戦争症候群に苦しめられ失望のあまり自殺をとげてしまった」。

今回の公聴会においてサリヴァンは、最近数ヶ月、イラクのファルージャから先天性障害やガンが急増しているという、大変気がかりな報告が出てきていることを証言した。こうした異常は、2004年に米英軍によって行われたファルージャ猛攻の際に使用された、劣化ウランを含む砲弾が原因となっているのではと推測されている。また、報じられているところによれば、イラクの人権担当官たちは訴訟を準備している。

劣化ウランとは戦車や装甲を貫通する兵器に使われる高密度の重金属で、爆弾にも添加され、兵士の安全より放射性物質の無制限の使用を選んだ。サリヴァンは本紙「Truthout」に対し、1993年のメモにおいて指示が出され、実施されるはずだった医学的な諸検査は、あるトレーニング・ビデオが兵士たちを怖がらせたため中止されたのだと述べた。「計画が引っ込められたのは、トレーニング・ビデオを見た幾人かの兵士たちが、(映像中に)宇宙服を来てガイガー・カウンターを持った兵

士が出てくるのを見て動揺してしまったからだ。敵を殺そうとする際に被曝云々などは無視しなければならない戦場の現実を考えると、トレーニングはかえって問題となると軍は考えたのだ」とサリヴァンは語った。サリヴァンは、放射重金属にさらされる推定400,000人の帰還兵のわずかな部分だけを散発的に調査しているような復員軍人省が行っている劣化ウラン調査計画は不相当であると言った。「復員軍人省は専門家の意見を聞かない。復員軍人省は会議を聞きさえしない」とサリヴァンは自身の証言で語った。「無活動の20年間で既に過ぎ去った。退役湾岸兵士を緊急に、ベトナム戦争退役軍人がエージェントオレンジ(枯れ葉剤)にさらされ苦しみぬいた40年をまた繰り返すことを避けるように願っている。」

[以下略]

---

---

## 国連総会「ウラン兵器決議」に向け9月対政府要請 ウラン兵器禁止と被害者支援に積極的に取り組むよう

日本政府に迫ろう！

「ウラン兵器禁止を求める国際連合」(ICBUW 運営委員)

嘉指信雄、森瀧春子、振津かつみ

---

---

この秋の第65回国連総会において、三回目の「劣化ウラン兵器に関する決議」が議論されます。「ウラン兵器禁止を求める国際連合」(ICBUW)では、劣化ウラン兵器使用の凍結(モラトリアム)、今までに使用された地域・量についての情報公開、被害地域への支援など(下記ICBUWの提案参照)、これまでよりも前進した内容が新たな国連決議に盛り込まれるよう求めるため、10月4日から始まる国連総会第一委員会にあわせて、ニューヨークでのロビー活動と国連内でのワークショップを行います。

### 【対政府／外務省 要請項目】

1. 劣化ウラン兵器が「非人道的無差別殺傷兵器」であることを踏まえ、日本国政府が同兵器の禁止に向けて国際的イニシアティブを発揮し、積極的に取り組むよう要請します。とりわけ、来月から開始される第65回国連総会での劣化ウラン兵器に関する議論において、同兵器の禁止と被害者支援をめざす国際的プロセスを前進させる「新たな決議」が採択されるよう、加盟各国と協力して取り組んで下さい。
2. イラク等の劣化ウラン兵器被災地域の被害調査の支援と、現地の実情に沿った、被害者への医療支援などを日本国政府として積極的かつ速やかに行うよう要請します。
3. 過去及び現在の在日米軍基地内の劣化ウラン兵器の貯蔵、使用(イラクなどの戦地や紛争地域での使用や試射等)の実態を把握し、国民に公表するよう要請します。また現在基地内にある劣化ウラン兵器については、それらのすみやかな撤去を米国政府に求めて下さい。
4. ベルギーに続き「劣化ウラン兵器禁止法」

を国会へ政府提案し議決を働きかけるよう、さらには北東アジア「非劣化ウラン兵器地帯(フリーズゾーン)」設置に向けて努力するよう要請します。

### 【ICBUWの国連加盟国への提案項目】

- 1) 「予防原則」に基づき、劣化ウラン兵器の使用をやめること。
- 2) 汚染サイトの評価と管理を促進させるため、これまでに劣化ウラン兵器を使用した場所及びその数量を、まだ公表していない国はすべて明らかにすること。
- 3) 劣化ウラン兵器被害者のケア、汚染地域の除染と危険性軽減のため、技術的、経済的、相互支援を行うこと。
- 4) 劣化ウラン兵器禁止のための国際的諸方策を結びつける可能性について検討すること。
- 5) 第67回国連総会の議題に「劣化ウラン兵器の影響」を含めること。

[注：以上の項目は、新たな国連決議に含めるべき内容として、ICBUWのロビー活動の中で各国政府に訴えている内容です。]

## ニュースクリップ

### 政府は日本国内に劣化ウラン兵器 の配備を認める

【琉球新報・沖縄タイムス  
8月26日】

政府は8月25日までに、県軍用地転用促進・基地問題協議会（軍転協・会長仲井間知事）が7月に照会した基地問題に関する諸項目について県などに回答をしました。それによれば、嘉手納弾薬庫での劣化ウラン弾の存在について「わが国の一部施設・区域に保管されることもある」としています。さらに「米軍は即応体制を維持するため、緊急事態に備える」ことが配備理由とされ、実戦使用を前提としたものです。一方で「内部規律によりわが国の訓練場で使用することはない」と訓練実施については否定しています。なお、劣化ウラン弾の存在自体は2000年5月に当時の嘉手納基地司令官が弾薬庫内での貯蔵を明らかにしていました。

これにより、日本国内に劣化ウラン兵器を配備していることは「可能性」の問題ではなく日本政府が事実上公認したことになっています。日本政府はこれまで「特定の保管場所については公表しない」との方針の説明を受けている」とし、核兵器と同様「その存在を否定も肯定もしない」米軍の方針に従うとしています。

辺野古問題とも関連し、日本の従属ぶりが際だつ結果となり、取り組みを強めなければなりません。

### 世界で劣化ウラン 関連報道が増えている

日本ではNHKが8月7日に「海外ネットワーク」という番組の中で、イラクの子どもたちの現状を紹介している中で、「イラクの医師によると、湾岸戦争以来、ガンになる子どもたちが増えているという。原因は分かっていないが、強い貫通力から対戦車用に使われてきた劣化ウラン弾の影響が疑われている。不十分な医療体制の中で、白血病などの子どもたちの治療は難しい状況だ。子どもたちを支援している日本のNGO活動を紹介」という内容だ。

ロイター通信も5月に「劣化ウランはイラクの人々の生命を脅かしている。」との映像レポートを放送し、英国のスカイニュースは「WHO、イラク・ファッルージャでの先天性異常増加を調査へ」とのニュースを流している。

ユーゴ、ボスニア、コソボ紛争で使われた劣化ウランについても、その被害状況が報じられており、映像を使ったニュースが今年3月に独立系ジャーナリストの報告で報道されている。

国連でもクラスター爆弾に続き、廃絶の取り組みが進み始めており、この流れをもはや逆戻りさせることなく、推進していく段階に来たことが感じられる。しかしながら現在も苦しんでいる多くの人たちには、医療援助を、また、これから新たに被曝の影響を受ける、特に子どもたちのために、一日も早い汚染除去の取り組みが必要となっている。

## 本の紹介

### 世界は変えられる

J C J 日本ジャーナリスト会議

市民メディア賞受賞

TUPが伝えるイラク戦争の「真実」と「非戦」

TUP: Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳者たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 240 ページ

ISBN4-8228-0480-1

### 世界は変えられる II

—戦争の被害者って? 加害者って?—

TUP: Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳家たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 288 ページ

ISBN4-8228-0489-5

### イラク占領と核汚染

森住 卓 = 写真・文

A5・160 ページ (写真 96 ページ / 文章 64 ページ)

2005 年 8 月 6 日発行

本体価格 2000 円 ISBN4-87498-347-2

米英軍のイラク攻撃は、イラクの人々に何を  
もたらしたのか!? イラク戦争開戦前夜から占  
領下を含め通算八回、イラク各地を取材。

軍事占領と劣化ウラン弾、イエローケーキな  
どによる放射能に苦しむ人々の姿を、鮮烈な写  
真と文章で伝えるフォトドキュメント!

<http://www.morizumi-pj.com/>

### 「放射能兵器・劣化ウラン —核の戦場・ウラン汚染地帯」

劣化ウラン研究会編、技術と人間社 発行

2003 年 3 月 定価 2500 円

「ボクは死ぬんだ。死んでしまうのだ。」イラクの小児  
病棟では連日、血を吐きながら子どもたちが死んで  
ゆく。劣化ウランは史上最悪の大量殺りく兵器であ  
る。この兵器を使用しているかぎり、人類だけでなく、  
地球上の生きとし生けるものに未来はない!

<主要目次>

第1章 危険な劣化ウラン弾

第2章 劣化ウランの軍事転用

第3章 核燃料サイクルと劣化ウラン

第4章 身近にあらわれる劣化ウラン

第5章 劣化ウランおよび劣化ウラン兵器

廃絶運動

<著者紹介> (50音順)

伊藤政子 アラブの子どもとなかよくする  
会代表

新倉修 青山学院大学法学部教授

野村修身 電磁波問題市民研究会代表

藤田祐幸 慶応義塾大学物理学教室助教授

森住卓 フォトジャーナリスト

矢ヶ崎克馬 琉球大学理学部教授

山崎久隆 劣化ウラン研究会代表

取り扱いहतんぽぼ舎まで

劣化ウラン兵器を

造らせない 持たせない 使わせない

## 劣化ウラン研究会

〒161-0061 東京都千代田区三崎町2-6-2

ダイナミックビル5F たんぽぼ舎内

TEL: 03-3238-9035 (たんぽぼ舎)

E-mail: [vfa01742@yahoo.co.jp](mailto:vfa01742@yahoo.co.jp) (山崎) URL: <http://www.jca.apc.org/DUCJ/>

入会方法: 通信欄に住所・氏名・電話番号・Eメールアドレスを明記して、  
年会費 (個人 2000 円・団体 4000 円) を下記口座へお振込みください。

郵便振替口座 00100-2-155130 劣化ウラン研究会